

ともに 前に 1 歩

湯沢市地域学校協働本部
地域学校協働活動ニュース

Q 学校で地域の人に参加して学習を進める活動をふやすためには？

1 授業や活動の事前準備や安全安心を守る活動

- ① 1年生の給食配膳支援（子どもだけでできないことや、教師の負担削減のために）
- ② 見守り隊など児童生徒の安全確保
- ③ 教師の手が回らない校内環境整備（玄関等）



入学時の1年生給食配膳補助



スクールバスにおける児童見守り補助
(教師同乗の場合)

2 個人、グループの支援や指導者として参加する

- ① ミシン授業や裁縫授業の支援
- ② まち探検の補助、校外学習（〇〇の見学）の補助
- ③ カッターや糸鋸での制作活動の補助



図工での金づちの作業補助



まち探検での活動補助

3 より専門的な知識や技能を生かして参加する

- ① ゲストティーチャーとしての参加
- ② 戦争や震災の経験の話者
- ③ 米作りや野菜作りの体験活動
- ④ 介護や福祉活動の講話と実践指導



地域未来塾で行った「おもしろ理科教室」



ネギづくりの見学とふるさと先生

4 子どもと一緒に学習活動へ参加する

- ① 子どもと一緒に話し合い活動
(お年よりとまちづくりとは etc)
- ② 子どもと一緒に工芸品の製作、楽器の演奏
- ③ 地域学校防災教室への参加
- ④ 一緒に花植えをする（校外、地域の花壇など）

***これからは手伝いではなく、「一緒にやる」というキーワードが大切です。**

5 教材づくりに一緒に参加する

- ① 学習発表会の大道具、小物づくり
- ② 読書カード、しおり作りなど読書推進活動の準備
- ③ 郷土の歴史マップ作り 地域かるたづくり
- ④ 危険箇所マップづくり (PTA と学校運営協議会の連携により危険箇所を見直す。)

「自分の力でやらせたいから、手伝いはいりません！」

え！ちょっと待って！

地域の人と一緒に活動することは子どもたちにとって新たな効果を生みます。また地域の人や子どもが互いにWIN-WINになる活動になることも考えられます。「一緒にやるよさ」とは何か考えてみませんか。

地域の皆さんにお願いしたいことは、学校に行くこと＝教えるに行くこと、だけではないことです。自分のためのボランティアという意識が大切です。



住民合同の避難訓練での受付



地域の方々との熟議（意見交換）

1 地域づくりの未来を考える

Q 地域で子どもたちは、「地域人」として生きていますか？

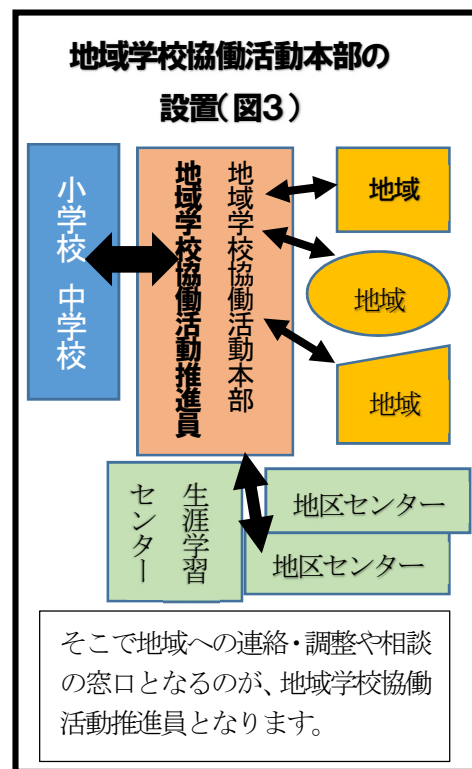
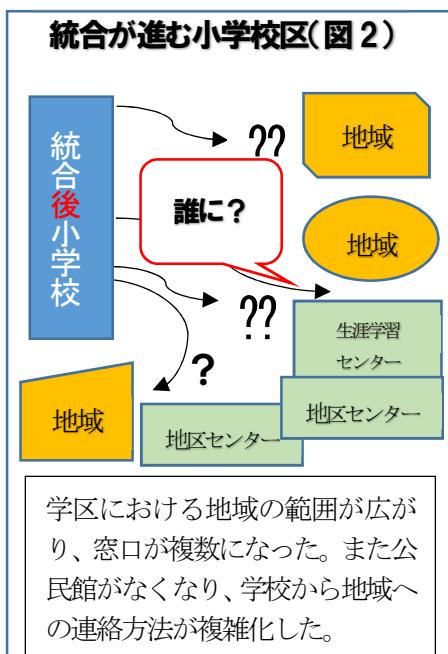
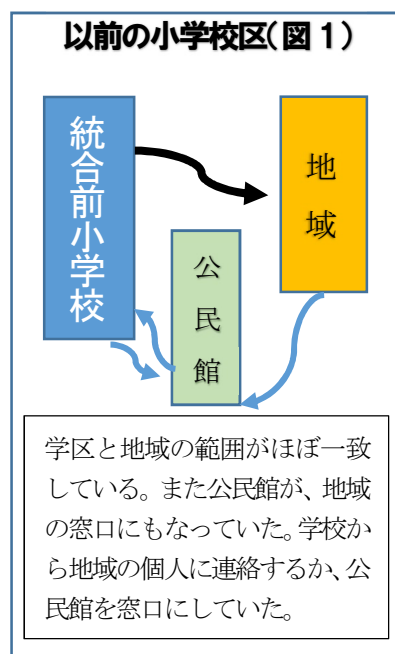
それを考えるには

地域に小中高校生の出番がある場面があるか。

地域や町内では、子どもに「やってあげること」が多いと思います。しかし、その子どもにとって受け身の姿勢は、子どもから、「住民意識」を奪ってしまいます。子どもが、お客さんではなく、何らかの役割のあつてこそ持続可能な地域づくりにつながります。中高生は、勉強や部活が忙しい。小学生だってスポ少、習い事が忙しくて・・・とよく聞きます。だから地域活動には、幼児しかいなかったり、保護者である30代40代の参加が少なかったりします。しかし、地域の中で、自分たちが他者のために役に立つことを知り、自分の考えが他者に認めもらう機会があればこそ、地域に生きる未来の子どもを育てることではないでしょうか。地域学校協働活動は、地域と学校をつなぎ、子どもが地域人として生きていくためにも、大きな力を発揮するはずです。

2 学校と地域をつなぐ窓口の変容～地域学校協働活動推進員の配置

統合によって、小学校区と地域のずれが生じています。これまでは、基本的に一致していました。中学校区でも、学区に複数地域があり、うまく連携がとれないことがありました。文科省は、コミュニティ・スクールを立ち上げる時に、小学校区で考えることが望ましいとされていました。地域の窓口がわかりやすかったからです。しかし地域住民組織が学区と同じようには構成されていません。



小・中学校に対して地域の窓口は一つでないことが地域連携を難しくしています。かつては、図1のようにシンプルでした。小学校も統合が進み、図2のように、学校に対して複数の「地域」が含まれ、さらに公民館も、生涯学習センターや地区センターといった組織に変わりました。学校が地域住民の生活や文化に触れようとしても、地域への参加の調整役を誰が担うのか困難になりました。この窓口を担うのが、令和元年に地域コーディネーターから名称が変わった地域学校協働活動推進員です。今年度は各中学校区に8人配置されています。



Instagramで湯沢市地域
学校協働本部の活動を
紹介しています。

@YUZAWA_CHIHIKIGAKKO

活動や資料についての問い合わせ

湯沢市地域学校協働本部統括推進員

鎌田 まで(生涯学習課 直通 73-2163)